透かしを削除する Wondershare PDFelement

白羽の矢でグッドスターターに

金沢市議会議員
久保 洋子

Kubo Yoko

出身地●金沢市
業務内容●自由民主党金沢市議員会所属
　4期、前市議会議長
趣味●小旅行、手芸
座右の銘●復原力

人生で最も名誉な出来事

令和3年3月19日、金沢市議会初の女性議長に選ばれました。さまざまな思いが胸にこみ上げ、感極まりながら、議場という私の人生において最高のステージで挨拶いたしました。

Wondershare PDFelement

透かしを削除する Wondershare PDFelement

ただいま、議員各位から御推挙いただき、歴史と伝統ある金沢市議会第92代の議長に当選させていただきました。誠にありがとうございます。心から感謝申し上げます。金沢市議会初の女性議長となり、本当に光栄に思っております。この就任の重みをしっかり受け止めて、議会の代表として、公平かつ円滑なる議会運営に取り組んでまいる所存であります。今期、女性議員が7名になりました。私は、女性議員ならではの気づきや情報の広さや体験の豊かさといった女性の視点が議会に新しい風を送る、そのような気配を感じておりますので、議会のより活性化に皆様に期待もいたしております。

また、1年以上も続く新型コロナウイルスの感染症による地域経済の影響を重視するとともに、より安心・安全な市民生活の対策とポストコロナの社会を見据えた新たな取り組みも求められていると存じます。市当局と議論を重ね、信頼される議会として多様な意見を市政に適切に反映させ、市民福祉の向上と市勢発展に向けて全力を傾けてまいりたいと存じます。議員各位の御指導と御協力をより一層お願い申し上げまして、当選に当たっての御挨拶といたします。本当にありがとうございました。

金沢市議会定例会で議長席に座る筆者。
手前は山野之義市長＝令和3年12月

この本が出版され、皆様に読んでいただく頃には、議長の交代をしていると存じます。これまでの人生でも、最も名誉な出来事でした。この場を借りて、私を支えて下さいました皆様に、心より感謝申し上げたく存じます。そして、ここに至る人生のなかで、「自分を変えたあのとき」を振り返り、文章に残す機会を得たことを幸せに思います。

母の影響で看護の道に

78歳となった私は、昭和18年に旧満州国奉天省で生まれました。終戦後の昭和21年、両親は赤ん坊の弟と私を連れ、命の危険にさらされながら労苦をしのぎ、

透かしを削除する Wondershare PDFelement

やっとの思いで金沢の母の実家に引き揚げました。私は船内で疫痢にかかり、下痢と栄養失調でもうダメかという状態に陥りましたが、母が看護師だったことが幸いし、死なずにすみました。「洋子ちゃん、死んだら海に捨てられたんだよ」と聞かされていたことを思い出します。母の力で命拾いしたことや、看護師として働く母の影響で、その後の進路は看護の道へと決めていました。

高校を出て国立金沢病院(現金沢医療センター)附属高等看護学校に入学し、卒業後は母の働く国立金沢病院に就職しました。ここで看護師として3年半勤務した後は、結婚・出産・育児のライフイベントとともに職場を変えるという、柔軟な選択をしながら働き続けました。

「あなたに立った白羽の矢だから」

外科眼科混合病棟に勤務して3年目のことです。国立金沢病院は、富山県婦中町(現富山市)の国立療養所富山病院附属准看護学院の生徒を実習生として受け入れすることになりました。当時、3、4年目の若手看護師が臨床指導者として対

応することになっており、私もその一人に選ばれました。実習を終えた生徒のアンケートで、評価が一番高かったのは私でした。そのため話は急展開し、准看護学院から看護教員として来てほしいと誘いがあったのです。病棟師長(当時は婦長)から返事を求められ、驚きました。

仕事も楽しく充実していた時期だったため、准看護学院からのありがたいお誘いでしたが気乗りせず、そろそろ結婚してもいい時期だと考えていた親も困ったようでした。富山に行けば、3年は戻ってこられないとのこと。悩む私に上司である病棟師長は、「わたしに先輩を飛び越えて婦長昇進の話がきたとき、なぜ、あんたなんやと、同期や先輩、まわりから嫌味を言われた。でも、チャンスには飛び込むもの。あなたにはそのチャンスをつかんで、さらに経験を積み上げて成長してほしい。他の誰でもない、あなたに立った白羽の矢だから」と言われ、このアドバイスで私は一歩、階段を上ることにしました。

私が先陣を切った後も、国立金沢病院から教員として人事異動することが継続されました。「あのとき」の決断は大変良かったと思っています。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

准看護学院では、寮の舎監を兼務して生徒と一緒に生活していました。富山県の准看護師試験免許の取得のために、特に合格ラインを下回る3人の生徒には個人指導で毎晩勉強に付き合いました。結果、見事全員が合格。年度の区切りで後任が決まりやすいこともあり、短期間でありましたが結婚退職し、転勤という形で富山を離れ、羽咋郡志雄町(現宝達志水町)で夫、義父母との同居生活が始まりました。昭和44年春のことで25歳でした。

新たな職場は、七尾線で電車通勤40分の公立能登総合病院の准看護学校です。同病院では折しも翌年、新たに正看護師の進学コースを設立するという時期に当たり、ちょうど指導できる人材を探していたのでした。母の人脈でスムーズに転勤ができました。

転勤前から文部省の専任教員養成講習を受けることが決まっていましたが、公立能登総合病院で指導するうえでも、講習を受けておく必要がありました。そうした差し迫った事情のもとに、結婚3カ月目であったものの、東大医学部で半年間、学ぶことになったのです。当時は学生運動がとても盛んな時期でした。医学

部生による東大紛争さなかの大変な場面にも遭遇し、残念ながら突然の休講も一度や二度ではありませんでした。

東大医学部の講習修了後は、進学コースを設立するための超ハードスケジュールがのしかかってきました。寝る間も惜しんで仕事に明け暮れていた頃、私の妊娠が重なり、切迫流産で入院する始末。義父母に叱られ、深夜、家族が寝静まってから、そぉっと起きて仕事の続きをこなすことで乗り切りました。

昭和45年夏、長男を無事出産し、翌年は長女にも恵まれ、年子の育児が始まりました。看護学校での仕事にもやりがいを感じ、能登地区初の正看進学コースの教務として、張り切って熱心に授業をしていました。

なんでもこなすマルチ看護師に

大変だったのは、年子2人の子守りをする義母です。義母の苦労を見かねた親しい方が長女を預かり、お世話してくれて本当に助かりました。そんな頃です。羽咋市に日本海側で初めて、全国でも8番目となる青少年のための宿泊研修施

透かしを削除する Wondershare PDFelement

設「国立青年の家」が設置されることになりました。昭和47年6月に開所を控えた国立能登青年の家(現国立能登青少年交流の家)が看護師を募集していることを知った夫の姉から、自宅からの距離が七尾より近いからという理由で、強く面接を受けることを勧められました。年子の孫の世話に悲鳴を上げている義母を哀れに思ってのことでした。

青年の家とは何する施設か興味も持てないまま、しぶしぶ面接を受けることになりました。私の本音は、看護教務を辞めたくない。実は公立能登総合病院としても私を辞めさせたくはなく、その結果、青年の家の採用にあたっては多くの人に迷惑をかけることになりました。義父が連れてきた有力者が間に入り、病院長と面談を重ね、ようやく退職転勤となりました。

私は病院に残りたい気持ちをこらえ、自分の置かれた環境を優先した格好ですが、「仕方がない」と思わず、この先歩む道に新しい出会いと働く魅力がきっと待っていると信じることにしました。自分の選択は二重丸なのだと、自らを鼓舞したものでした。

国立能登青年の家は、宿泊型の青少年研修施設でした。創設時、私をはじめ職員皆で、研修事業の充実に取り組むことから始めました。青少年健全育成を目的に、羽咋・眉丈台地と柴垣の海、自然を生かした活動を一から作り上げるのです。私は看護職ですが、保健室の仕事だけでなく、青少年の生活指導や活動プログラム指導、受け入れ事務と、なんでもこなすマルチ看護師としての役割が求められ、その色合いはだんだんと濃くなっていきました。

初代の徳山正人所長は文部省の青少年教育課長を務めていた方でもありました。徳山氏は所長として赴任していた5年間、国立施設としての先進的な活動を推進し、職員のみならず、羽咋市当局、県内青少年団体、多くの市民に至るまで影響を与え、親しみやすい人柄が皆さんに愛された素晴らしい方でした。私にとっても、病院看護職では得られないような貴重な経験と勉強を、十二分にさせて頂きました。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

またも白羽の矢、青年の船に参加

昭和51年、32歳のときでした。徳山所長から総理府の第10回「青年の船」の班長として推薦いただきました。石川県の選抜試験に合格し、アメリカとメキシコを訪問する2カ月間の旅に参加させていただくことになったのです。青年の船とは、政府が日本人の若者を海外に派遣するという事業で、現在も「世界青年の船」に引き継がれています。

実は、前年の第9回にも推薦いただいていたのですが、その時は子どもがいることが理由で県の試験は不合格でした。独身者が有利なのは当たり前と特に残念に思いませんでしたが、翌年、所長から再度推薦を受けたときはびっくりしました。徳山所長は「これからの女性は家庭があっても子供がいても、国の事業で海外に行くチャンスがあれば挑戦しなさい」と背中を押してくださったのです。徳山所長はご自分の考えを県の海外派遣団体にもお伝えしていたことを後日知りました。

「青年の船」に参加した筆者（手前右）＝昭和51年6月

当時、青年の船には男性20班、女性10班が参加しており、女性班長や全女性団員のなかでも子どもがいるのは私のみでしたが、松下倶子副団長は小学生のお子さんが2人いる方でした。青年の船事業10年目にして初めて、家庭があり、子どもがいる女性が選ばれ、しかも班長と副団長を務めたのです。2カ月も家を空ける既婚女性はいないだろうと、国も県も派遣に線を引いていたのではないでしょうか。それまでは独身の方ばかりが選ばれていたのです。

一般団員で乗船する公務員以外の多

透かしを削除する Wondershare PDFelement

くの一般女性は、一生に一度の機会として、仕事を辞めて青年の船事業に参加していました。社会の女性活躍の流れはまだまだの時代。私は自分の決断・行動が後に続く既婚女性にとってチャレンジの一助になったのではと誇らしく思います。

私たちは国の事業、つまり税金で素晴らしい経験を積み上げることができました。したがって下船後は、それぞれのできる範囲での地域活動が期待されていました。私は事後活動として、地域の母親クラブの会長、石川県の母親クラブ連絡協議会(現未来地域子育てネット)の副会長として20年間、子育て支援、母親支援のリーダーとしてボランティア活動を続けました。国立能登青年の家での仕事にも活かせたし、広い人脈も築くことができました。

三度白羽の矢　63歳で市議選に

定年を前に、金沢市内に老後の住まいを建てました。定年後は石川県看護連盟の高澤タマエ会長の推挙で、連盟幹事長として第2の人生をスタートしました。

その時期は、上部団体である日本看護連盟が新しい連盟へと変革を試みる「リフォーム連盟」の活動を始めた頃に当たります。看護職の代表を国政に送り出すため、旧来の活動を見直し、「会員一人ひとりが自覚をもって行動できるようになること」を方針として打ち立てていました。石川県支部は県看護連盟に模様替えし、その県連盟の下に地区の支部が設けられることとなりました。その趣旨を私は素直に理解できましたが、組織の改変やそれに伴う事務的な作業が伴うことなどから、当初、役員の皆様に本部の新方針についてご理解を得るのはなかなか大変でした。その経験を経たからでしょう。その後も自信をもって幹事長の任に当たることができました。

数年後、人生の一大事がやってきました。自民党県連から、平成19年統一地方選挙にあたって女性議員を増やしたいから、県看護連盟から市議会議員の候補者を立ててほしいと打診があったのです。地域性や年齢など条件も伝えられましたが、条件に合う候補適任者はいない。でも組織としては要請を断らない方が良いのではという意見が多く、候補者を出す方針に傾いていきました。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

問題は人選です。現役の方は日々の生活を得るための仕事を頑張っており、当選が保証できない選挙への出馬を、仕事を辞めてまでお願いすることは、組織としてなかなかできないという事情がありました。もしも当選がかなわなかった時は責任がとれない、というモヤモヤがあったのです。

そのうち、お二人の国会議員がお越しになり、「久保幹事長でどうか」とおっしゃるのです。初出馬に63歳は高齢だからとお断りしましたが、いやぎりぎり大丈夫とも言われる。私自身は、初挑戦には年齢が大きな壁だと感じました。一方で、その年齢だから挑戦できるのだと、県看護連盟の役員の皆さんから説得もされました。家族に迷惑をかけないか、また選挙戦を戦えるだろうかとの不安もあり、なかなか決断ができません。

時間をかけて県看護連盟の幹部の方々と話し合いを重ねるうち、私自身が「これは県看護連盟から地方議員を出すことができるチャンスだ。当選すれば女性議員が増えることになる。それは看護の力を社会に活かすことであり、私が挑戦するしかない」と使命感も感じるようになりました。その思いは夫にも通じ、家族

の反対はありませんでした。

自民党金沢支部では初めての職域代表として金沢市議会議員選挙に出馬しました。新人ではもうおひと方と並んで最年長63歳の初挑戦です。蓋を開ければ定員40人のところ53人が立候補しました。13人も落ちるとは。出なきゃよかったと泣きたい思いでした。投開票日は4月22日。報道などで私が落選ラインにいると知った夫は、3月末に会社を辞め、選挙を手伝ってくれました。

結果、定員40人中40位と最下位当選でした。大激戦の選挙で下位グループは団子状態。当選確定は夜中12時をまわったことから「シンデレラ市議」とも呼ばれました。私はもとより、支援してくれた看護職の皆さんも胸をなで下ろし、自民党に女性議員を1議席増やすことができました。同時に一票の重みを、身をもって知ることとなりました。

地方議員は、特別な人でなくても、拳を上げて若さをアピールしなくても、当選して地域のため、女性の視点を生かして活動できます。初心を忘れずに市民の代表として、暮らしやすい社会にしたいと頑張っています。

透かしを削除する Wondershare PDFelement

悔いなき自分の足跡を

振り返ると、私は職場や上司に恵まれていました。3本の白羽の矢は、私にとってグッドスターターとなる機会を与えてくれました。人生どの道を選択するか。自分が進む道を決断した以上、悔いなき自分の足跡を残したいものです。一方で、私は仕事を続けながら家事と子育て、義父母の介護や看取りを経験し、今も議員として働かせて頂いています。夫婦間を振り返れば結婚して53年、デコボコ道もあったけれど、その道を踏みしめながらの人生に不満はありません。

歳を重ねるごとに人脈を広げ、新たな経験と知識など、多くの気づきを得てきました。女性だから、高齢者だからと、自分で自分を限定せず、さりとて思い上がることもなく、等身大で生きるという芯の強い心をもって、実年齢よりも5、6歳は若いつもりで活動することを、これからも目標にしていきます。

Wondershare PDFelement